

〔国際交流活動におけるオリジナリティ〕

WBL (Work Based Learning) & WBR (Work Based Research) に関する国際交流活動の経緯

北山 三津子 石川 かおり 奥村 美奈子 木村 正子

Process of International Academic Exchanges on WBL (Work Based Learning) & WBR (Work Based Research)

Mitsuko Kitayama, Kaori Ishikawa, Minako Okumura and Masako Kimura

I. はじめに

岐阜県立看護大学では、開学時から国際交流事業を実施しており、看護学教育に関して先進的に取り組んでいる海外事例について理解を深め、看護実践を通じた生涯学習の意義とその方法を考察するとともに、国際的な学術交流の機会とすることを目的として取り組んできた。平成22年4月に法人化するまでの間は、国際交流委員会が中心となり、世界各国の看護学教育に関する情報収集を企画・実施し、その成果を大学紀要に報告し、教員間で共有してきた。

法人化後は、組織改変により法人に新たに設置された国際交流対策会議において、国際交流基本方針(図1)が策定され、グローバル化が進展する国際社会に対応できる国際的資質を備えた教員の育成を図るため、「諸大学・研究機関との国際的な学術交流の推進」、「国際的情報発信の推進」および「国際的視野の拡大」の3項目を国際交流の重点施策として位置づけ、積極的に推進することとなった。

また、国際的資質とは、本学が目指す“看護実践を基軸とした教育・研究活動”に関連して、教員自身が教育・研究活動により探究を続けている内容を踏まえ、a. 国際的な交流の機会を創生することができること、b. 看護のあり方について利用者中心の視点を包摂して意見交流ができること、c. 看護のあり方に関して国際的な交流により導かれた見解を公表することができること、d. 文化の異なる人々との交流のマナーを身に備えていること等を含めるとされた(国際交流対策会議, 2014)。

本学の国際交流基本方針のなかでも、「諸大学・研究機

関との国際的な学術交流の推進」については、平成24年度に海外諸大学・研究機関における教育・研究交流を行うための協定締結への長期計画が策定された。その後、平成26年度には、着実にその計画を進めるためのスケジュールを明確にし、平成28年度には、さらに進捗状況等を踏まえて、再度スケジュールの見直しを図り、協定締結の想定時期を平成33年度(2021年度)とした。協定先については、これまでに“看護実践を基軸とした教育・研究活動”を行っていることを条件としていくことを確認しており、まずは継続して取り組んできたWBL(Work Based Learning)事業の実績を踏まえて進めることが相応しいと考えられた。また、それと同時に学内において、国際交流を進めるための教員による意欲的、意図的な取組みを進めることで多様な国際交流の方法を探っていく(国際交流対策会議, 2016)こととなった。

以上に示したとおり、国際交流活動は、本学の国際交流基本方針に基づいて、国際交流部会(平成28年度からは国際交流委員会)が中核になって展開してきており、「諸大学・研究機関との国際的な学術交流の推進」については、WBLに関する国際交流事業の計画・実施とともに、平成27年度からは国際交流に向けた教員の自主学習会(スタートアップカフェ)の企画・実施に取り組んできた。

WBL/WBR(Work Based Research)に関する国際交流活動は、本学の国際交流活動の主軸を成すものであり、本学の人材育成目標の達成に向けた活動にもつながるものである。以下では、本学の国際交流活動、とりわけWBL/WBR

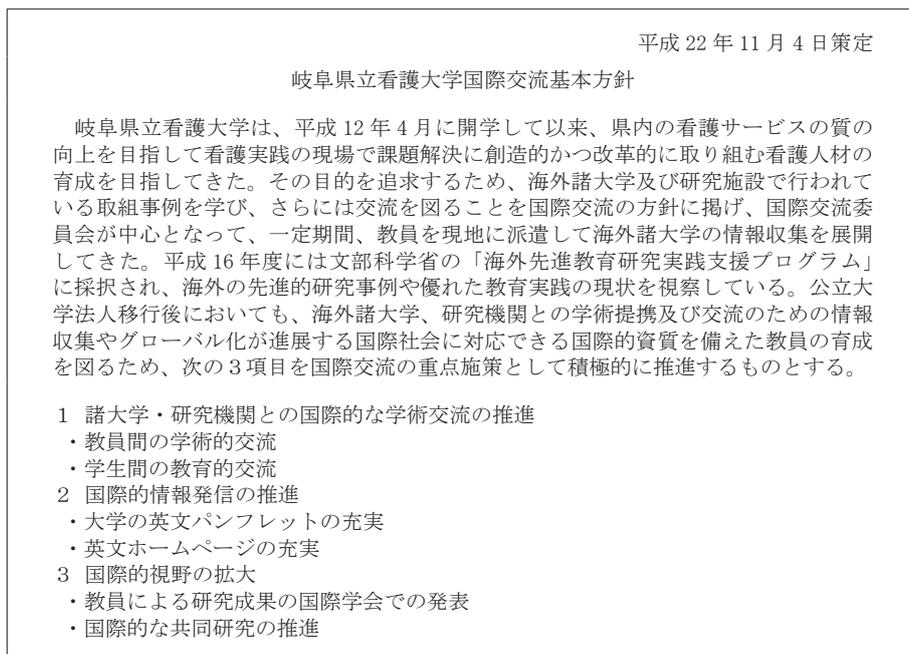


図1 岐阜県立看護大学国際交流基本方針

に関する国際交流活動に焦点を当てて、その経緯を整理したい。

II. 開学時から平成21年度(2009年度)までのWBL/WBRに関する国際交流活動—海外派遣による看護学教育に関する情報収集—

WBLに関連する教員海外派遣の実績は表1に示すとおりである。以下では、年度を追って、情報収集の成果を簡潔に述べる。

平成13年度(2001年度)は、英国(UK)における看護学の基礎教育および卒業後教育全般を視察した。卒業教育においては、卒業後の教育環境が豊富に用意されており、看護師として働きながら履修することが可能であり、実際にも多数の例があることを把握した(宮本ら, 2003)。

平成16年度(2004年度)は、看護職の生涯学習の拠点になるという本学の理念を実現する観点から、英国のNHS(National Health Service)が力点を置いて進めている「retain(専門職としてのキャリア開発、現職教育)」としてLifelong Learningを取り上げた。ロンドンのプライマリケアトラスト(PCT primary care trust)で活動する看護師から具体的な説明を受ける等の現地研修により、WBLの実際について学んだ。その結果、WBLはLifelong Learningの重要な概念であり、①職場の課題を意図的に学習に結びつけ、理論的な裏づけを与えること、②大学な

どの教育機関と連携して、職場の学びを教育課程のひとつとして位置づけること、③学習者に協力的に関わるだけでなく、支持的(supportive)に関わることが含まれていることがわかった。また、英国と日本は医療制度や看護学教育制度は異なっているが、看護職の生涯学習の意義は本質的に変わることはなく、英国の取組みからの学びは、岐阜県の看護職の生涯学習の発展に貢献し得るものであることが示唆された(服部ら, 2006; 小田ら, 2006)。

平成18年度(2006年度)は、看護専門職の生涯学習支援としてのWBLについて、学位に繋がるシステムの全体像を捉えること、WBLの成果を確認すること、これらを合わせて本学への応用を考えていくことを目的として、現地での研修を行った。ロンドンに所在してWBLコースを設置しているMiddlesex大学およびLondon South Bank大学のWBLコースの実際を学んだ。また、学部教育における看護現場と大学との連携や看護現場における生涯学習支援等幅広く情報収集して、本学におけるWBLの活用可能性について具体的に考えることができた。さらに、大学教育を受けていない登録看護師の学びを大学レベルの学びに高め、看護現場での課題に研究的に取組み、学位取得に繋げていることおよび個人の学習動機を高めると同時に学習する組織へと発展していくことが看護におけるWBLの意義であるとの示唆を得た(両羽ら, 2007)。

平成19年度(2007年度)は、プライマリケアにおける

表1 開学時から平成21年度までのWBLに関連する教員海外派遣一覧

| 年度 | 活動テーマ | 教員 |
|--------------------|------------------------|-----------------------|
| 平成13年度 (2001年度) | 英国(UK)における看護学教育について | 宮本千津子、田中克子、服部律子、黒江ゆり子 |
| 平成16年度 (2004年度) | 英国(UK)におけるWBLの実際 | 服部律子、小田和美、両羽美穂子 |
| 平成18年度 (2006年度) | 看護専門職の生涯学習支援としてのWBLの実際 | 両羽美穂子、布原佳奈、梅津美香 |
| 平成19年度 (2007年度) | 英国における看護職の生涯学習支援 | 服部律子、奥村美奈子、坪井桂子 |

WBLの実際と大学との教育の連携について視察することを目的とした。London South Bank大学のプライマリケアに関するWBL教育は、受講者の日々の看護活動に直結する内容で構成されており、企画段階から十分に検討されているものであった。また、London Deaneryにおけるシミュレーション学習では、看護の経験年数の長短に関わらず、日頃の仕事の中では気づきにくいことに着目できる点から現場の看護職にとって有効であると考えられた。英国では、WBLプログラムは軌道にのって継続的に発展していることがわかった(服部ら, 2008)。

Ⅲ. 平成22年度(2010年度)以降のWBL/WBRに関する国際交流活動—国際交流の基本方針に基づく研修事業の展開—

WBLに関する国際交流事業は、国際交流の基本方針に基づき、平成21年度までの海外派遣事業を基盤として、海外講師を招聘した研修と教員の海外派遣研修を中軸として実施してきた。以下に、海外講師招聘による国際交流と教員海外派遣による国際交流に区分して説明を加える。

1) 海外講師を招聘した研修会

海外講師を招聘した研修会は、平成23、25、28、30年度に実施した。各年度の目的、招聘講師、期間は表2に示すとおりである。

研修会の趣旨は、WBLに先進的に取り組んでいる海外事例について理解を深めるとともに、国際的な学術交流を図ることであるが、目的は、回を重ねるとともに少しずつ焦点の当て方を変えてきている。平成23年度はWBLに先進的に取り組んでいる海外事例について理解を深め、看護実践を通じた生涯学習の意義とその方法を考察することであったが、平成25年度は、WBLを基盤とした大学・大学院教育に焦点化して、その意義と方法を考察することとなった。平成28年度は、新たにWBRに関する理解を深め

ることが加わり、平成30年度はWBL/WBRを基盤とした大学のあり方や教育・研究の意義・方法について意見交換し交流を深めることとなり、交流に重点がおかれた。

各回のプログラムは、表3～6に示すとおりである。平成23年度は英国における医療体制・医療者教育体制におけるWBLの意義に関する講義と質疑応答、平成25年度は大学教育・大学院教育におけるWBLの実際に関する講義と質疑応答であった。平成28年度は、WBRの基本的考え方および方法論に関する講義とともにグループワークによる体験学習を行い、さらに、日本における看護学教育の例として本学の看護学部看護学科、大学院博士前期・後期課程教育の特性を紹介して相互交流を図った。平成30年度は、WBL/WBRを生かした教育方法・技術を中心とした講義とともに、本学の看護実践研究(共同研究)や大学院における看護実践研究(修士論文・博士論文)指導についての説明と意見交換を全体の約半分の時間を割く構成にして、学術交流という目的を果たすべくプログラムを構成した。

講師は、平成25年度からは、Middlesex大学でWBL/WBRを担当している教員を継続して招聘しており、継続性のある一貫した講義内容となっている。また、本学教員が参加しやすい時期と日数を考慮して、9月中旬の3日間に開催している。研修の目的・日程・プログラムについては、国際交流委員会が案を策定し、教授会に諮った後、教員会議において説明し、全教員への周知を図っている。参加者数は年度によって多少異なるが、殆どの教員の参加を得ている。とりわけ、平成30年度の研修会は、前回(平成28年度)と同じ講師2名を招聘し、前回の内容を踏まえつつ、さらに発展した内容に切り込んだものであったため、参加者の理解が深まったと思われる。質問数も多く、限られた時間を有効に活用することができた。また、本学からの発表は、本学の取組みを海外の研究者に知ってもらう機会になったと同時に参加者自身の教育・研究に対するモチベー

ションを高めることに繋がった点で好評であったことから、学术交流という本来の目的に徐々に近づいてきていると考えられる。

また、毎回の研修会後には、参加教員を対象として、研修会を通じて得た学びと研修方法の改善に繋がる意見を聞く質問紙調査を実施している。毎回の調査結果から、教員はその回の目的に沿って各自の考えを深めており、さらに学び続ける必要性に気づく機会になっていることを確認している。研修会は数年に1回であるが、その間教員は、研修会での学びを生かして教育・研究活動を行い、これらの

活動を通じて学びを検証し、次回の研修会でさらに学びを深化させることを継続してきている。本研修会は、本学が取り組んでいる共同研究、看護学部の教育、博士前期・後期課程の教育、とりわけ看護実践研究を課している看護学特別研究（修士論文・博士論文）の意義や指導のあり方・方法論等の明確化に寄与するものであると考える。

なお、平成30年度の研修内容については、招聘講師であったS.Cunningham先生とT.Moore先生に寄稿いただいた。本稿に続いて51ページ～82ページに掲載されているので、ご一読いただきたい。

表2 海外講師招聘研修会の実績

| 年度 | 目的 | 講師 | 期間 |
|--------|--|---|-------------------|
| 平成23年度 | WBL (Work Based Learning) について先進的に取り組んでいる海外事例について理解を深め、看護実践を通じた生涯学習の意義とその方法を考察するとともに、国際的な学术交流の機会とする。 | Sylvia Debreczen 氏 MA ; RGN ; RN ; Tutor & Associate Director(英国) Michel Grenville 氏 FRCGP ; Associate Director (英国) | 9月12日、 13日、14日 |
| 平成25年度 | WBL (Work Based Learning) について先進的に取り組んでいる海外事例について平成23年度国際交流事業を踏まえ、WBLプログラムにおける大学の機能と責務について理解を深め、WBLを基盤とした大学・大学院教育の意義とその方法を考察するとともに、国際的な学术交流を行う。 | Barbara Workman 氏 (Middlesex University) Tina Moore 氏 (Middlesex University) | 9月10日、 11日、12日 |
| 平成28年度 | WBL (Work Based Learning) について先進的に取り組んでいる海外事例について平成23年度・平成25年度国際交流事業および平成27年度教員派遣事業を踏まえ、大学におけるWBLを用いた教育およびWBR (Work Based Research) の実際について理解を深め、WBL・WBRを基盤とした大学のあり方および教育の意義・方法について意見交換し交流を深める。 | Tina Moore 氏 : Middlesex University (Senior Lecturer in adult and acute care nursing) Sheila Cunningham 氏 : Middlesex University (Associate Professor) | 9月13日、 14日、15日 |
| 平成30年度 | 岐阜県立看護大学における平成30年度国際交流事業として、WBL (Work Based Learning) ・WBR (Work Based Research) について、平成23・25・28年度国際交流事業および平成27・29年度教員派遣事業を踏まえ、先進的に取り組んでいる英国 Middlesex University における教育・研究について理解を深め、WBL・WBRを基盤とした大学のあり方および教育・研究の意義・方法について意見交換し交流を深める。 | Tina Moore 氏 : Middlesex University (Senior Lecturer in adult and acute care nursing) Sheila Cunningham 氏 : Middlesex University (Associate Professor) | 9月18日、 19日、20日 |

表3 平成23年度海外講師招聘研修会プログラム

| 月日 | タイムスケジュール | 講義内容 |
|-------------|--|---|
| 9/12 (月) | 9:15～10:00 導入：本学がWBLに着目した経緯とWBLに関するこれまでの概要 10:00～12:00 挨拶 講師紹介 講義 12:00～13:00 ウェルカムパーティ 13:00～15:00 講義 小休憩 15:10～16:00 質疑応答 | 1) 英国におけるWBLの経緯 2) 英国の医療体制・医療者教育体制におけるWBLの意義 (Part1) (1) 英国の医療体制の概要 (2) 英国の看護職者の教育体制の概要 (3) (1)(2)を踏まえたWBLの意義 |
| 9/13 (火) | 10:00～12:00 講義 12:00～13:00 昼食 13:00～15:00 講義 小休憩 15:10～16:00 質疑応答 16:00～ 質問紙の記入 | 2) 英国の医療体制・医療者教育体制におけるWBLの意義 (Part2) (1) 看護職者のキャリアアップとしてのWBLの実際について (2) 生涯教育におけるWBLプログラムの概要 (3) 大学との連携におけるWBLプログラム例 (4) 大学との連携におけるWBLプログラムにおける看護職のキャリアアップ事例 |
| 9/14 (水) | 10:00～12:00 追加講義および質疑応答 討議 | 討議内容 (1) 看護職者にとってのWBLの意義 (2) 社会にとってのWBLの効果 (3) 日本の医療体制・看護体制におけるWBLの意義と効果 |

表4 平成25年度海外講師招聘研修会プログラム

| 月日 | 午前 | 午後 |
|-------------|---|---|
| 9/10 (火) | 9:30-12:00 挨拶 講師紹介 1) 英国の看護学教育体制におけるWBLの意義 (1) 英国の看護学教育体制の概要 (2) 英国の生涯教育体制の概要 2) 大学教育・大学院教育におけるWBLの実際について (1) 大学(学士課程)におけるWBLプログラムの実際 Q&A 12:00-13:00 ウェルカムパーティ(本学食堂) | 13:30-15:30 講義2)のつづき 2) 大学教育・大学院教育におけるWBLの実際について (2) 大学院(修士・博士課程)におけるWBLプログラムの実際 (3) WBLプログラムにおける大学の機能と責務 Q&A |
| 9/11 (水) | 9:30-12:00 3) WBLの効果(アウトカム)について (1) WBLプログラムにおける卒業論文の特性と指導のあり方 (2) WBLプログラムにおける修士論文の特性と指導のあり方 (3) WBLプログラムにおける博士論文の特性と指導のあり方 Q&A 12:00-13:00 ランチ&ディスカッション(希望者) | 13:30-15:30 講義3)のつづき 3) WBLの効果(アウトカム)について (4) 大学教員とWBL研究所教員との連携、および学位認定について (5) 学士・修士・博士課程修了後の活動状況についての現状と課題 Q&A |
| 9/12 (木) | 9:30-12:00 「ワールドカフェ」 | |

表5 平成28年度海外講師招聘研修会プログラム

| 月日 | 午前 | 昼 | 午後 |
|-------------|--|--|--|
| 9/13 (火) | 9:30~11:50 挨拶 講師紹介 1) 英国の看護学の学士・修士・博士課程教育におけるWBLの実際について理解を深める。 平成27年度研修実績(WBLの目的展開方法、大学院教育の実際)の報告と意見交換 Q&A | 12:00-13:00 ウェルカムパーティ @本学食堂 (WGが計画・運営を担当) | 13:20-15:30 2) WBRの基本的考え方および方法論について理解を深める。 (1) WBRの特性、方法論、成果 (2) 大学教員が行うWBRおよびWBRにおける大学教員の役割 Q&A |
| 9/14 (水) | 9:30-12:00 3) 看護学教育におけるWBLのアウトカムについて学び・考え、意見交換する。 (1) WBLにおける卒業論文・修士論文・博士論文の特性と指導のあり方 (2) 大学教員と学生が所属する施設職員との連携 (3) 学士・修士・博士課程修了後の活動状況についての現状と課題 Q&A | 12:00-13:00 ランチ | |
| 9/15 (木) | 9:30-12:00 4) 日本におけるWBL・WBRを生かした看護学教育のあり方・方法について意見交換し、考えを深める。 (1) 岐阜県立看護大学における学士課程および修士・博士課程教育の特性 (2) 岐阜県立看護大学大学院看護学研究科における修士・博士論文の特性と指導の現状 Q&A | 12:00-13:00 ランチ&ディスカッション (希望者) | 13:30-15:00 5) 日本におけるWBL・WBRを活かした看護学教育のあり方・方法について意見交換し、考えを深める。 (1) WBL・WBRを生かした修士・博士論文の指導方法(主として教授・准教授が参加) グループワーク、全体討議 |

表6 平成30年度海外講師招聘研修会プログラム

| 月日 | 午前 | 昼 | 午後 |
|-------------|---|--------------------------------------|--|
| 9/18 (火) | 9:30-11:50 開会挨拶 Session 1 WBRの特性と方法論 ・方法に関わる理論および研究の実際 ・大学教員が行うWBRの成果および方法 | 12:00 -13:00 ウェルカムランチ @本学食堂 | 13:30-15:30 Session 2 WBL・WBRを生かした教育の特性と教育方法 ・教育方法・技術：省察による学びの意義と学びを促進する方法等 |
| 9/19 (水) | 9:30-12:00 Session 3 1) Middlesex Universityにおける看護実践を基盤とした教育の実際 ・平成29年度研修の報告 2) WBRの特性と方法論 ・岐阜県立看護大学における看護実践研究の紹介(共同研究事業)の紹介 | | 13:30-15:30 Session 4 WBL・WBRを生かした教育の特性と教育方法 ・大学院教育における修士論文・博士論文の指導方法 |
| 9/20 (木) | 9:30-12:00 Session 5 1) 1日目/2日目の講義内容に関する質問へのフィードバック 2) WBL・WBRを生かした教育の特性と教育方法 ・岐阜県立看護大学の大学院教育における看護実践研究(看護学特別研究)指導の紹介 閉会挨拶 | | |

2) 教員の海外派遣による研修

海外派遣研修は、平成27、29年度に実施した。各年度の目的、派遣先、期間、派遣教員は、表7に示すとおりである。この研修は、海外講師を招聘した研修会等での学びを起点として、教員各自の興味・関心に基づき、さらに学びを深めることをねらいとしている。したがって、事前に派遣希望者を募り、希望者が研修計画を立てて、受け入れ窓口である Middlesex 大学の教員と内容について検討し、スケジュールの調整を行うこととしている。研修後は、翌年度の海外講師を招聘した研修会で報告するとともに、本学紀要に研修内容・成果等を報告し、学内の教員間で研修成果を共有している。

平成27年度の海外派遣研修では、看護職の生涯学習を支える体制が整っている英国の現状に対して、わが国においては看護実践者が継続的に学ぶことができる環境や条件の体制整備が求められることが提起された。また、ポートフォリオを活用して看護実践を客観的に説明する能力を向上させている現状を学び、本学における看護実践研究の指導・支援に示唆を得たことが報告された(大井ら, 2019)。

研修に参加した教員からは、研修の目的に沿って具体的なプログラムが組まれており、多くの学びを得て、教育・研究に関する視野を広げることができ、満足できる研修であったという評価を得ている。

表7 教員海外派遣の実績

| 年度 | 目的 | 派遣先 | 期間 | 派遣教員 |
|--------|--|---------------------------|-----------------|----------------------|
| 平成27年度 | Middlesex University における看護実践を基盤とした教育の先駆的取り組みの実際を学び、看護生涯学習の意義・方法について交流を図る。 | Middlesex University (英国) | 平成28年2月29日～3月4日 | 大井講師 武田講師 布施講師 |
| 平成29年度 | Middlesex University における看護実践を基盤とした教育の実際の見学および討議を通じて、看護学教育のあり方・方法に関する交流を深める。 | Middlesex University (英国) | 平成30年3月4日～11日 | 布施講師 澤田助教 |

IV. おわりに

本学は、岐阜県内の看護の質の向上を目指して、看護学の教育・研究活動の中核機関として設立され、本年度で20周年を迎える。本学では、特に、看護職者が日常行う看護サービスの質の向上と現状の改革を導く実践性の高い研究活動に力点を置いた人材育成を主眼としており、看護学部看護学科および大学院看護学研究科を設置するとともに、看護の実務に就いている職業人の生涯学習の拠点としての役割を担うべく教育・研究・地域貢献活動を展開してきた。今回改めて本学の国際交流活動を振り返る機会を得たことによって、WBL/WBRに関する国際交流活動は、本学の理念に基づく教育・研究活動の特質・意義を明確にすることや方法論の追求に確実に繋がってきていることが確認できた。今後もこの活動を継続・発展させることによって、本学が取り組んでいる看護実践研究の理論化および指導方法の明確化を進めるうえで多くの示唆が得られると考える。

文献

- 服部律子, 小田和美, 両羽美穂子. (2006). 英国の医療におけるWBL (Work Based Learning) の実際 (第1報) —新しいNHSとWBLの概念—. 岐阜県立看護大学紀要, 6(2), 65-69.
- 服部律子, 奥村美奈子, 坪井桂子. (2008). 英国における看護職の生涯学習支援. 岐阜県立看護大学紀要, 9(1), 53-59.
- 国際交流対策会議. (2014). 国際交流事業に関する方向性について, 10月8日教授会資料.
- 国際交流対策会議. (2016). 国際交流事業に関する方向性について, 12月26日国際交流対策会議資料.
- 宮本千津子, 田中克子, 服部律子ほか. (2003). 英国 (UK) における看護学教育について—イングランドとスコットランドの基礎教育および卒後教育を視察して—. 岐阜県立看護大学紀要, 3(1), 109-115.
- 小田和美, 両羽美穂子, 服部律子. (2006). 英国の医療におけるWBL (Work Based Learning) の実際 (第2報) —ブライマリアケアにおけるWBL—. 岐阜県立看護大学紀要, 6(2), 71-77.
- 大井靖子, 武田順子, 布施恵子. (2019). 英国の看護教育におけるWBLプログラムの実際. 岐阜県立看護大学紀要, 19(1), 163-170.

両羽美穂子, 布原佳奈, 梅津美香. (2007). 看護専門職の生涯学習支援としてのWork Based Learningの実際. 岐阜県立看護大学紀要, 7(2), 81-87.